

3. COMコーナー

学術情報データベース「オンライン法学学習用択一式問題データベース」の概要と課題

愛知大学法学部教授 加藤克佳

コンピュータを使った法律学の学習方法とそのツールについては、他分野に比べ、これまでさほど研究されてこなかった。しかし、ICT(Information and Communication Technology)が法学教育の様々な場面に活用され始めており、これに対応した研究を進める必要がある。コンピュータを使った法学教育については、すでに e-Learning が注目を集めているが、これもコンテンツ不足であり普及が不十分であることは否めない。すなわち、e-Learning を始めるインフラは揃ってきても、その中に入れるコンテンツがほとんどないというのが、現状である。そのため、コンピュータを使った法学教育用のコンテンツ作りの基礎となるデータを収集しデータベース化する作業は、法学分野でも時代の要請となっている。

このような状況の下で、本研究では、法律学の学習成果を量る素材としての択一式（短答式）問題をできるだけ収集し、これを電子化してデータベースとすることを、主な目的として実施した。法律の各分野に関する択一式問題は、司法試験をはじめ多くの国家試験や民間の資格試験等で用いられている。そこで、こうした択一式問題をできるだけ網羅的に収集してデータベース化し、オンライン学習のシステムを作成する際の基礎データにしようと考えた。

実際の作業は、概ね順調に進捗した。すなわち、本課題採択後の夏休み以降、法科大学院院生2名を含む数名を臨時職員として雇用し、まずは、法律の各分野を広く対象とし、学部学生にもなじみの深い択一式問題である「法学検定試験」問題を収集させた上、そのデータの入力作業を行わせた。データ入力に目処が立った段階で、さらなるデータを収集するため、他からの問題収集と整理にも着手した。具体的には、法学検定試験よりも問題量の蓄積が多い「司法試験」の短答式問題を主な素材として、基本六法（特に憲法、民法、刑法を中心とする）のデータベースを作成した（ただし、データ自体の正確性チェックや、分類等、なお不十分な箇所が残っている）。

このように、作業自体はほぼ予定どおりに進んだが、作業を開始して判明した問題点もいくつかあった。最も愁眉の課題は、このデータベースの利用方法をどうするか、である。当初はサーバを立ち上げ、データベース用に収集した基礎データをオンライン・アクセスできるようにしようと考えていたが、この公開用ソフトウェアの購入・開発に相当な資金と時間がかかることが判明した。単にデータを公開するのであれば Web 上にデータを置く

だけでよいが、データベースであれば当然検索機能などを備えることが必要となる。しかるに、このコストは大変高額になることが予想される。したがって、当面の公開方法としては、作成した基礎データを Excel ファイルとして配布することなど、小規模なものとならざるを得ないのが実情である。

本研究で作成しようとしたオンライン法学学習用択一式問題データベースは極めて利用価値の高いものであり、これが実質的に稼働するに至れば、本格的なコンピュータを使った法学教育システムの開発にも繋がるであろう。例えば、コンピュータを使った法律学習教材として、画面上に次々と本データベースから択一式問題を表示し、学習者に回答させ、その回答結果を記録収集してデータベース化し、学習者の弱点を見つけ出し、この弱点箇所を何度も繰り返し学習させて補強し、さらに、よりレベルの高い択一式問題に挑戦させるという形がとれば、段階的なレベル・アップを伴う自主学習を比較的容易に促進することができる。そして、このデータベースの収録範囲が、国家公務員試験や司法試験、行政書士試験などあらゆる資格試験、法学検定のような民間の資格試験をも網羅できれば、それぞれの対策を、各自がオンライン上で行うことが可能となる。このやり方は、そのまま e-learning へと発展させることができるものであり、場所や時間に制約されることなく、それぞれの学生のニーズに応じた学習が可能になるであろう。今後は、こうしたシステムの基礎となるデータベース自体の充実とともに、それを利活用するためのインフラ作りが喫緊の課題となるといえよう。